

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				種別	コメント
7 セツブ節婦 (新冠町)	地区 川 駅	セブ	sep	広き所 広い	ポロセブ、ポンセブが流れているが、二川とも小川でセブ(広い)という感じがしない。ただ沢は割合に広いので、古くはそこを広く流れていたのでもあろうか。 {永田解のセブは新冠川筋のセブを指したものらしい。}	永田 山田	C	-
		スツセブ	{ sut-sep }	^{フモト} 麓・広い	ポロシュセブ、ポンシュセブ。 {川が広いとか沢が広く流れているというのではなく、その川の流域にある麓高原状の台地が広がっているためということと思われる。}	松浦		-
8 セトセ 瀬戸瀬 (遠軽町)	地区 川 駅 山岳	セツウシイ *セトウシ	set-us-i	巢・多い・もの(川)	昔からその名だったのなら、このような意味であろう。 {間宮図(1821)には「セトシ」と書かれているという。}	山田	C	-
		セタニウシウツカクコツ	setani-usi-uturu-kot	エゾノコリンゴの木が・ 群生する所・の間の・沢(凹地)	旧図にこの名の記載がある。セタニウシがセタウシとなり、更に瀬戸瀬と訛ったと考えたいが、だいが音が離れているようで全く自信がない。			-
9 ゼニハコ 銭函 (小樽市)	地区 川 駅	-	-	-	いつもニシンが大量に獲れた所だったため。 現代流に言えば「ドル箱」の土地なのである。	松浦 山田	A	和名と思われる。
10 センピリ 仙美里 (本別町)	地区 駅	センピリ	senpir	カゲ 陰	アイヌが熊害などを避ける時、樹蔭あるいは岩かげにかくれた事があったためという。	安田岩城	C	-
					十勝アイヌがこの辺で北の釧路アイヌ勢に逢い、蔭にかくれて逃れたとかの伝承を読んだようにうる覚えしているが、よく分からない。	山田		-
					パンケセンピリ、ペンケセンピリの二川から出た地名。利別川に合流する川口に樹木が繁っていて、深い陰をつくっていたのだろうか。	本別町史		-
11 センホウシ 仙法志 (利尻町)	地区	チェッポオチ	ceppo-oci	小魚・多くいる所	今井八九郎図(天保5 = 1834年)ではチセホヲチと書かれているが、たぶんチエホヲチの誤写であろう。釧路町の仙鳳趾と同じ形の地名だったように思われる。(もしセがカの誤記だったのならチカボ・オチで小鳥多き所となるが。)	山田	B	-
12 センホウシ 仙鳳趾 (釧路町)	地区	チェップオウシイ *チェップオシ	cep-pop-us-i	魚涌き立つ 魚が・跳ねる・いつもする・所	この湾はニシン、サメ、雑魚が多かったため。 元来は現在地の南の方の海岸の地名(古番屋)だったと思われる。	松浦 山田	B	- いずれにせよ、「魚が沢山いた」ことが語源と思われる。
		チェッポオチ	{ ceppo-oci }	小魚・いる所	ニシンが多くいるところだったため。	永田		-

[ソ]

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 ソウンキョウ 層雲峡 (上川町)	地区 温泉	-	-	-	大正 10 年この地に来た大町桂月がつけた名だという。双雲別温泉などの名をもとに美しい字を当てたのである。 {層雲峡渓谷の入口の双雲別川(ソウンペツ so-un-pet 滝・ある・川)の音から発想したとも思われる。}	山田	A	和名と思われる。
2 ソ イン 桑園 (札幌市)	地区 駅	-	-	-	明治七年開拓使が酒田の藩士を招いて、現在の西十一丁目から西の地を開墾して養蚕を奨励したのによる。	駅名	A	和名と思われる。
3 ソウシュベツ 双珠別 (占冠村)	地区 川 湖 山岳	ソウシペツ	so-us-pet	滝が・ついている・川	5 万分河川図を開いて見ると、川筋の支流がこの川に入る所に滝が多く、一番滝から五番滝までずっと並んでいる。	山田	A	
4 ソ ペツ 壮 警 (壮警町)	町 温泉	ソペツ	so-pet	滝・川	洞爺湖の水は南東隅から流れ出して途中で滝となり、さらに流れて長流川に入っていた。それで、その川が so-pet と呼ばれ、壮警と当て字された。 {洞爺湖から壮警川に移るところにある高さ 80 m ほどの壮警滝に由来するものと思われる。}	山田	A	
5 ソ ヤ 宗 谷 (稚内市)	地区 岬	ソヤ	so-ya	岩・岸	^{サンナイ} 珊内の海中にあったソウヤ岩という大岩から名付けられた。 昔、珊内のソーヤにあった会所を現在地に移したとき、名前も一緒に移したものらしい。	永田 松浦 山田	A	
6 ソノウシナイ 添牛内 (幌加内町)	地区	ソウシナイ	so-us-nay	滝・ある・川	霧立峠へ上る道のかたわらで、滝になって落ちているソオウンナイ川(so-un-nay 滝・ある・川)が語源らしい。昔は意味さえ通じれば少しぐらい形を変えても地名を呼んだ。 {幌加内町史は「ソーウンナイ 滝のある川または沢」と書いている。}	山田	B	-
7 ソラチ 空 知 (滝川市)	地区 川	ソラナチ	so-rapci	滝下る所	この川に大きな滝があるため。	永田	B	- いずれにせよ、「滝が落ちて いる」ことが語源と思われる。 -
		ソラナチペツ	so-rapci-pet	滝が・ごちゃごちゃ落ちている・川	この川の中流に現称空知大滝があり、何条にも分かれて落ちているので、so-rapci-pet と呼ばれ、和人がそれをソラチと呼び空知と当て字したのであった。	山田		

【夕】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				種別	コメント
1 タイキ 大樹 (大樹町)	町	タイキウシイ *タイキウシ	tayki-us-i	ノミ・多い・所	古くから、帯広 - 広尾間の街道の休み場、宿泊場になっていた所。宿泊の旅人がノミで困ったからの名か。 {葛野エカシは「昔、十勝アイヌの村に盗賊団がやってきたとき、ひとりのおばあさんが、ノミの神様に助けて下さいとお祈りしたところ、ノミたちが盗賊達にたかって、盗賊団はみんな逃げ出してしまった。それ以来その村にはノミという名が付いた。」と語ったという。}	永田 山田	C	-
2 タイショウ 大正 (帯広市)	地区	-	-	-	昔は幸震村 ^{サツナイ} といった所で、サツナイ川中流に位置し、日本の古語が地震を「ない」といったことからサツナイにそんな字を当てたのだが、後に音読みにして「こうしん」と呼ぶようになった。更に大正村と改名した。	山田	A	和名と思われる。
3 タイセイ 大成 (大成町)	町	-	-	-	昭和30年 ^{クドウ} 久遠村と ^{カイトリマ} 貝取瀬村の合併にあたり、住民より新村名を募集し、将来の大きな発展を願って命名。	地名大辞典	A	和名と思われる。
4 タイセツガン 大雪山 (東川町)	山岳	ヌタブカウシペ	nutap-ka-us-pe	川の湾曲部内の地・の上に ・いつもある・もの	この山はアイヌの崇拝の対象になっていて、ヌタブカムイシリ(nutap-kamuy-sir 川の湾曲部の・神の・山)とも称する。この両者が混合してヌタブカムシペとなり、和人はそれを甚だしく訛ってヌタブカムシュペ、あるいはヌタクカムウシュペなどとして、頬の山などと俗解するに至った。 川がぐるっと回っていて、それに包まれるようになった場所をヌタブ(nutap)という土地が多いが、ここではそれらしい地形を見たことがなく解しかねていたが、近文の尾沢カンシヤトク翁に尋ねたら、「一段高くなった山の上に広い湿原(nutap)があって、更にその上にそびえている山だから、ヌタブ・カウシ・ペというのだと思っていました。」との答えだった。それなら地形的にぴったりである。	知里 山田	A	
5 タカシマ 高島 (池田町)	地区 駅	-	-	-	高島嘉右衛門の農場内に駅を設置したのでその姓をとって高島と名づけた。	駅名	A	和名と思われる。
6 タカシマ 高島 (小樽市)	地区 岬	トゥカライソ *トゥカリソ ----- トゥカラスマ	tukar-iso ----- tukar-suma	アザラシ・岩	和名なのかアイヌ語から来た名なのかははっきりしない。左記のアイヌ語説とともに、和名で高い島だという説、また鷹に似た岩説、鷹がとまる岩という説も書かれて来た。	山田	C	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				概説	コメント
7 カス 鷹栖 (鷹栖町)	町	チカフウニ *チカプニ	cikap-un-i	鳥・いる・所	旭川市の西隣。近文山はその町内である。左記を意識して町名とした。 {鷹栖町史は「それを立証する資料はないが、近文コタンのアイヌたちは嵐山一帯を指してチカフニ(大きな鳥の住んでいるところ)と呼んでいたの、これを音訳して近文という文字をあて、意識して鷹栖としたという。」と書いている。「近文」は別掲。}	山田	A	
8 カドマリ 鷹泊 (深川市)	地区	-	-	-	市街の少し下の対岸に巨岩があって、鷹泊岩といわれている。そこに鷹が来てとまるのでこの名がついたといわれる。なお北海道駅名の起源昭和29年版はチカフオツがその名のもとであると新説を書いた。	山田	C	アイヌ語起源説もあり、不明。
9 タカ 滝川 (滝川市)	市 駅	ソラフチ(ペツ)	“so-rapci(-pet)”	空知 (滝が・ごちゃごちゃ落ちている ・(川))	ここはアイヌ時代はソラフチ・プトウ(so-rapci-putu 空知川・の川口)であって、和人はそれを空知太と呼んでいたが、その空知が意識されて「滝川」と改名された。伝えによると永田方正が、道の命により石狩川筋の主要地名を和訳名にすることになり、それによってできた名であるという。{「空知」は別掲。}	山田	A	
10 タキノウ 滝上 (滝上町)	町	-	-	-	大正7年渚滑村から分村して滝上村を称し、昭和22年町となった。滝上はポンカムイコタンの滝の上の所の意。	山田	A	和名と思われる。
11 タケウ 竹浦 (白老町)	地区 駅	トピウ	{ ? }	竹・多い	古くはこの辺一帯を敷生村(シキ・ウ(鬼カヤ・多い))と呼んでいたが、語呂が悪いとかで今の竹浦にされた。敷生川のすぐ奥の支流にトピウという所があり、竹の名産地であったので、それをとって竹浦と改名したのであろう。	山田	C	? -
		トフエウシ *トペウシ	top-e-us-i	竹が・そこに・群生している・所	-	知里	-	
12 タチマ 立待 (函館市)	岬	ピウシ *ピウシ	pi-us-i	立待 ? 石が・ある・所	岩磯の上に立って魚の来るを待ち、漁槍を以て魚を突いて捕る所をいう。 諸地に「魚を待っていて突いて捕る岩」のような地名が残っている。ここもそんな意味の「岩がある所」だったので、永田氏は訳でなく説明を書いたのではなかろうか。	永田 山田	C	-
13 タニウシ 稚内市	川	タニウシナイ	tatni-us-nay	カバの木・群生する・川	-	山田	B	- 山田解の方が自然な形と思われる。 ?
		タニナウシ *タニナルナイ	tat-ninar-us-nay	カバの高原なる川 カバの・岡・にある・川	-	永田 山田		

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント
14 タッコブ 達古武 (釧路町)	地区 川 沼	タフコフ	tapkop	ぼこんと盛り上がっている小山	沼の北側に丘陵が釧路川に向かって長く伸びていて、その先端が盛り上がっている。たぶんそれが名のもとになったタフコフなのであろう。	山田	A	
15 タフ 達布 (三笠市)	山岳	タフコフ	tapkop	たんこぶ山	明治29年五万分図にはタフコフ山と書かれている。諸地のタフコフは、ぼこんと盛り上がった目立つ小山であるが、ここは平べったい独立丘である。 {山田氏は後に「尾根の先が少しふくらんで盛り上がっているようなタフコフも少なくない」としており、そうだとすると現在の小達布が形状的に合致するという。小達布が名のもとだったのかもしれない。}	山田	B	-
16 ダテ 伊達 (伊達市)	市 駅	-	-	-	宮城県亘理藩主伊達邦成が明治初年、一族家臣と共に移住し、開発に成功した土地である。	山田	A	和名と思われる。
17 タドシ 多度志 (深川市)	地区 川	タウシナイ *タウシナイ	tat-us-nay	カバ(の木)・群生する・川	-	山田	B	-
18 タマエ 種前 (寿都町)	地区	タンネモイ	tanne-moy	長湾 長い・入江	-	永田 山田	B	-
19 タコライ 旅来 (豊頃町)	地区	タフコフライ	tapkop-ray	戦死の小丘 たんこぶ山・死ぬ	戦場だった。 {「タフコフ山で死ぬ」などの語意は考えづらい。近くに「tapkop-ray-pet タフコフの(ある)・死んだ・川」などがあり、その名が下略されたものであろうか。}	永田 山田	C	?
20 タヨロマ タヨ 多寄 (士別市)	川 地区 駅	タイオロオマペツ *タヨロオマペツ	tay-oro-oma-pet	林・中・にある・川	-	永田	B	-
21 タロキ 樽岸 (寿都町)	地区	タオロケン	taor-kes	川岸の高所・の末端	永田氏は「taro-kes 高所の下」と書いたが、taorの訛と思われる。	山田	C	-
22 タルマエ 樽前 (苫小牧市)	地区 川 山岳	オタルオマイ	{ ota-ru-oma-i }	砂・道・ある・所	昔、この山が噴火し土砂を降らせて以来、川に砂が流れるためという。未詳。	上原 永田 山田	C	- どちらとも特定しがたい。 -
		タオロオマイ *タオロマイ	taor-oma-i	高岸川 高岸・ある・もの(川)	樽前川を溯ると、両岸が目くらむような切り立った崖で、水がその底を流れている。			

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確バ	コメント
23 タンネ (根室市)	沼	タンネト	tanne-to	細長い・沼	その通りの形の沼である。	山田	A	
24 タノ 端野 (端野町)	町	ヌプケシ	nup-kes	野・の末端	ヌプケシやヌプホンケシ(nup-hon-kes 野・の腹・の末端) を頭に置いて、その語意を訳した地名だろう。	山田	B	-

【チ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確バ	コメント
1 チイゴ 小砂子 (上ノ国町)	地区 川	チシエムコ *チセムコ	cis-emko	高岩の水上 立岩の・水源	この沢の辺や海岸にも高岩が所々にあるため名付けられたものか。詳細は分からない。	上原 山田	C	-
2 チエブ 智恵文 (名寄市)	地区 川 沼	チェブント *チェブント	cep-un-to	魚が・入る・沼	-	山田	B	-
3 チエボツナイ (苫前町)	川	チェブオツナイ *チェボツナイ	cep-ot-nay	魚・多くいる・川	-	山田	B	-
4 チカウ 近浦 (えりも町)	地区	チカイエフ	cikayep	曲処{?}	前のころは近寄だったが、近年この称に変わった。川が折れ曲がった形でもあってついた名か。	永田 山田	C	? -
5 チカブミ 近文 (旭川市)	地区 駅 山岳	チカブウンイ *チカブニ	cikap-un-i	鳥・いる・所	この山の川に臨む所の山面に大岩があって、鷹が常に来てこの岩上に止まっていたため。 江丹別川に近い所の石狩川に臨んだ斜面に大岩が三、四そびえている。今でも時に犬鷲などが来てとまっているという。	永田 山田	A	
6 チキユ 地球 (室蘭市)	岬	チケフ	ci-ke-p	自分・を削った・もの = 断崖絶壁	ci-ke-p が元来の形で、それが cikew と訛り、それを三人称の形にしてチケウェ(その断崖)と呼んだものか。	知里	B	-
7 チクハツ 築別 (羽幌町)	地区 川	チュクペツ	cuk-pet	秋・川	秋に秋味(鮭)の多く上る川でもあったのであろうか。	永田 山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
8 チフハッ 秩父別 (秩父別町)	町 駅 川	チクシペツ	ci-kus-pet	通路ある川 我ら・通る・川	-	永田 山田	C	- どちらとも特定しがたい。
		チフクシペ	cip-kus-pe	舟が・通る・もの(川)	この湿原の中を舟で交通した時代があってこの名が出たのではなかろうか。	山田		-
9 チポマナイ 知方学 (釧路町)	地区	チポオマナイ *チポマナイ	cip-oma-nay	舟川 {舟・ある・川}	往時、舟が流れ寄ってきた所だったためという。	永田	C	- どちらとも特定しがたい。
		チェポオマナイ *チェポマナイ	cep-oma-nay	魚・いる・沢	-	松浦 山田		-
10 チトセ 千歳 (千歳市)	市 川 駅	-	-	-	昔はシコツと呼ばれた所である。シコツは死骨に通じるのでゆゆしい名だ。この辺には鶴が来るので、それにちなんで千歳にしたのだという。シコツはシ・コツ(si-kot 大・沢)の意。千歳川の旧名。今の市街地から少し上にかけてが大河谷の姿であり、また鮭の大産地であったのでこの称と呼ばれたのであろう。	山田	A	和名と思われる。
11 チランケウシ 重蘭寮 (釧路町)	地区	チランケウシ *チランケウシ	cip-ranke-us-i	舟を下す所 {舟・下ろす・いつもする・所}	山中で舟を作り、ここに舟を下す所。	永田	B	-
12 チマイベツ (室蘭市)	川	チパイペツ	cipay-pet	チパイ鳥川	チパイ、チパイと啼くチパイ鳥が春になると多かったため。	永田	B	? -
		チマイペツ	{ ci-ma-ipe-pet }	自ら・焼く・食物・川	アイヌの漁場で、魚を銘々焼き貯えて飯糧にしたためという。	上原		-
		チマエペツ	{ ci-ma-e-pet }	自ら・焼・食する・川	-	松浦		? -
		チマイペオツイ *チマイペオチ	" ci-ma-ipe "-ot-i	焼乾鮭・多くある・所	-	知里		「 ci-ma-ipe 」に関する名と考える方が自然と思われる。 -
13 チミケッ (津別町)	川	チミケッ	cimi-ke-p	山水が崖を破って流下する所 分ける・削る・もの(川)	上流の峡谷の姿を考えた解か。	永田 山田	B	-
14 チャシコツ 茶志骨 (標津町)	地区 川	チャシコツ	casi-kot	トリテ 砦・跡	丘陵が海の方に向かって突き出している所がある。その辺にチャシがあったのだろうか。それでその辺一帯の土地が茶志骨の名で呼ばれたのであろう。 {標津町史は「この付近に竪穴が多い。」と書いている。チャシ跡が遺跡として残っているという。}	山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
15 チャシナイ 茶志内 (美唄市)	地区 川 駅	チャシナイ	cas-nay	早川 {走る・川}	-	永田	B	? ? - 山田解の方が自然な形と思われる。
		チャシナイ	casi-nay	柴{?}・川 トリデ 砦・川	この辺に小木が多かったため。 このように解するのが自然だが、その辺にチャシの伝説が残っていなかったため、諸説が生まれたのだろう。なお研究問題が残っている地名。 {松浦『丁巳日誌』は「昔アイヌの貴人がいた所で、チャシは城のこと」と書いている。}			
16 チャツ 茶津 (室蘭市)	地区	チャシ	casi	トリデ 砦	元来はそこと室蘭市街地の間に突き出している丘の先がチャシ(砦)と呼ばれていたことから出た地名。	山田	A	
17 チャナイ 茶内 (浜中町)	地区 駅	イチャンナイ	{ ican-nay }	鮭の産卵場のある・川	-	駅名	B	-
18 チャロ 茶路 (白糠町)	地区 川	チャロ	caro	口 その口	足寄のアイヌが浜に下るとき、ここを越えたため。 大切な交通路の川の口なので、こう呼ばれていたであろう。	松浦 山田	A	
19 チュウシ 忠志 (端野町)	地区	チスイエウシ	cisuye-us-i	チシユエ草ある所	その皮をむいて、干し置き食料にしたという。	松浦	B	-
		*チスイエウシ		アマニュー草・群生する・所	-	永田 山田		
20 チュウライ 忠類 (標津町)	地区 川	チュウライ	ciw-ruy	水勢が強い 水流・激しい	この川瀬早き故。 この川口で見るとこの川は付近の諸川に比して急流であるので、この名で呼ばれたのであろう。	上原 山田	A	
21 チュウライ 忠類 (忠類村)	村	チュウライトプイ	ciw-ruy-topuy	流れ・激しい・当縁川(支流)	市街の近くにある川名の下略された名であった。 {当縁川については別掲。}	山田	B	-
22 チヨシハツ 千代志別 (浜益村)	地区 川	チセソウシペツ	{ cise-so-us-pet }	家の所滝ある川 {家・滝・ある・川}	当所にアイヌの家があったとき、近所に滝があったため。	松浦	C	? -
		チセソウシペ	cise-soso-us-pe	家・を崩した・者(川)	このぐらいの形が考えられるが自信はない。	山田		

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
23 チヨダ 千代田 (池田町)	地区	チエオタ	ci-e-ota	吾人飲食したる砂場 {我ら・食べる・砂浜}	今は鮭捕獲場があり、季節になると川の砂浜で鮭祭りのような事が行われている。昔も好漁場だったのでこの名で呼ばれたのであろう。 {池田町史は「古くから本町最大のアイヌコタンの所在地で、狩猟に漁労に最適の地であったものと思う。」とし、ただし、「場所は今日とは全く異なり、千代田大橋手前左側一帯を指しており、川向こうの幕別町明野地区をも含んでの呼称。」と書いている。 ただし、語法上は疑問がある。}	永田 山田	C	? -
24 チヨフシ 長節 (豊頃町)	地区 川 沼	チオプシ *チオプシ	{ ci-o-pus-i }	自ら破れる 自ら・そこ(川尻)・破れる ・もの(沼)	この沼は時々破れたため。 沼尻が砂で塞がれるか、沼の水位が高くなると、自然に沼尻が破れて流れ出す沼なのでそう呼ばれた。	上原 山田	B	-
25 チヨホシ 長節 (根室市)	地区 湖	チオプシ *チオプシ	{ ci-o-pus-i }	おのずから破れる 自ら・そこ(川尻)・破れる ・もの(沼)	この沼は時々自然に破れたため。 水量が増すと自然に破れる湖沼はよくあるらしい。	上原 山田	C	- どちらとも特定しがたい。
		チェフウシ *チェフシ	cep-us-i	魚所 {魚が・いる・所}	沼中にボウ魚が多かったため。	永田		-
26 チヨハッ 直別 (音別町)	川	チュクペツ	cuk-pet	秋の川	毎年秋になると、もよりのアイヌの人たちがこの川辺に来て小魚を捕り、食糧としたためという。	上原	C	- 上原解が最も自然な形と思われる。
				秋・川	夏に水が涸れ、秋には増水したため。	永田		?
		チュフペツ	cup-pet	月・川	昔、川上に月ぐらい明るい隕石 ^{イン} が落ちたため。	松浦 山田		?
27 チヨロベツ (釧路町)	川	チオロベツ	ci-oro-pet	(オヒョウニレの皮を)我ら・ 水に漬ける・川	語義の記録を見ない。	山田	C	-
28 チライ 知来 (佐呂間町)	地区 川	チライオツ	ciray-ot	イト魚居る所 イトウ魚・多くいる	今はこの魚はいないという。 {松浦『戊午日誌』は「チライオツ この川チライ多く、卵をなすが故」と書いており、佐呂間町史は「ciray-ot-i の後略形である。」と書いている。}	永田 山田	B	-
29 チライオツ 知来乙 (月形町)	地区 駅	チライオツ	ciray-ot	イト魚川 イトウ魚・多くいる	たぶん後にナイがついたのが略された形であらう。	永田 山田	B	-
30 チライハッ 知来別 (猿払村)	地区 川	チライペツ	ciray-pet	イトウ魚の・川	-	山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
31 チリップ 散布 (浜中町)	地区	チウルプ	ciwrup	アサリ貝	地名一般のつけ方から考えれば、大きい火散布沼の ^{ヒチリップ} 辺であさり貝が採れるかしてチウルプという地名ができ、それが近辺の名にも使われるようになったのではなかろうか。	永田 山田	C	-
32 チリハッ 知利別 (室蘭市)	地区	チリベツ	cir-pet	鳥・川	以前は数万の鴨が群集して、川が黒くなった程だという。その他白鳥、雁、鶴、鷺も多かったが、近年はいないという。	永田	B	-
33 チロツ 白人 (幕別町)	地区	チリオト *チロト	cir-o-to	鳥・多い・沼	-	永田	B	いずれにせよ「鳥が沢山いたこと」が名の元と思われる。
		チリオツ *チロツ	cir-ot-to	鳥・多くいる・沼	{現在は、沼は確認できないという。}	山田		
34 チロロ 千呂露 (日高町)	山岳 川	チリオロ *チロロ	{ cir-oro }	鳥・の所	音のまま読めば、これぐらいにしかない。 なお、松浦氏は「ヲモシロイという儀」と書いた。平取の萱野茂氏はキロロ(爽快)の訛ではないかという松浦解にびったりの試案を出された。	山田	C	-
35 チワシ 千走 (島牧村)	地区 川	チウアシペツ *チワシペツ	ciw-as-pet	早川 波・立つ・川	永田解「チワシ・ペツ」のチワシは、チウ・アシ(ciw-as)を続けて発音した形で、道内諸所の地名に出てくる。	永田 山田	B	-
36 チンレ 鎮錬 (音更町)	川	チンレケオマブ	cin-rerke-oma-p	獣皮を乾かす ^{カナダ} 彼方なる所 獣皮乾し枠の・向こうの所 にある・もの(川)	-	永田 山田	C	?

【ツ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1 ツイカ 対雁 (江別市)	地区	トイシカラ	to-isikara	回流沼 {?}	野津幌(のっぼろ)川と厚別川の間にあった沼が、清水を湧出し回流していたため。	永田	C	?
		トエシカリ	to-e-sikari	沼が・そこで・回る	-	山田		-
2 ツキガ 月形 (月形町)	町 駅	-	-	-	明治14年(1881年)樺戸集治監初代典獄として月形潔がこの地に赴任した。その姓をとって月形村が生まれた。	山田	A	和名と思われる。